

# HP IceWall SSO

HP IceWall技術レポート:SSO製品の効果的な導入方法特集



SSOの効果的な導入とは？

- » 乱立するWebアプリケーション、行き詰まるシステム
- » 効果的な導入の鍵 その1
- » 効果的な導入の鍵 その2
- » HP IceWall SSOが実現する Enterprise Architecture

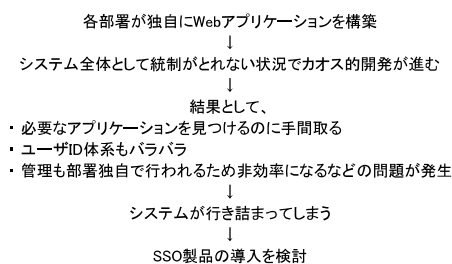
「将来的にシステムが向かうべき方向性はわかっているのに、現実にもどようなステップを踏んで最終形に到達するのが効率的なのかはわからない」  
そんな悩みに答え、今回はSSO(シングル・サイン・オン)製品のより効果的な導入方法にフォーカスします。

## 乱立するWebアプリケーション、行き詰まるシステム

「SSO製品を導入する際、認証データベースを統合するにはどうすればよいのか?」「各部署に分散しているWebアプリケーションを、どのように統合していけばよいのか」お客様からお話を聞いていく中で、最近特に増えてきているのがこのような質問です。

さらにヒアリングを進めると、多くの場合ある共通の問題を抱えていました。

その問題とは、



## 効果的な導入の鍵 その1：早期のWeb統合基盤導入でスピーディな抜本的改善を

このように行き詰ってしまったシステムを解決する唯一の方法は、Web基盤統合による根拠からの立て直しです。中でもWeb基盤統合において、認証基盤統合はその大きな構成要素であるSSOやポータルへの導入が不可欠になってきます。

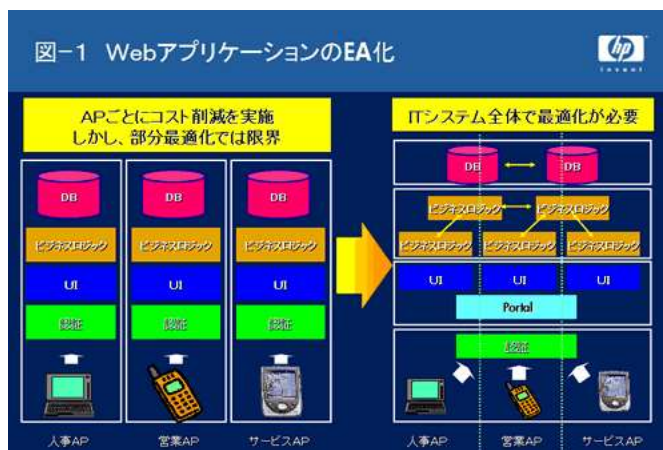
しかし、システムが行き詰ってしまった段階での導入には、認証データベースの再設計やWebサーバのコンソリデーションなど、負担の重い作業が伴うため、相当な体力が必要となります。

従って、SSOとポータルの効果的な導入方法の1つ目の鍵は、その導入時期にあります。より早い段階で導入することにより、SSOとポータル製品は更なる効果を発揮するのです。

## 効果的な導入 その2：Enterprise Architectureの実現

近年、企業のWebアプリケーション導入には目を見張るものがあります。従来のクライアントサービスシステムとは異なり、クライアント側へのアプリケーション配布が不要であることやWeb製品の導入で簡単に情報発信ができることなどから、各部署が次々と個別にWebアプリを構築しました。少し先端的な大企業であればWebアプリケーションの数は数百にも及んでいます。しかし、各部署が縦割りに開発を続けていると、システム全体から見た場合に非常に効率が悪く構造になってしまいます。たとえば、セキュリティの問題が発生すれば、各部署で個別に対応し、各部署はそのための要員を抱えなければなりませんし、縦割りの開発では、コスト削減にも限界が出てきます。

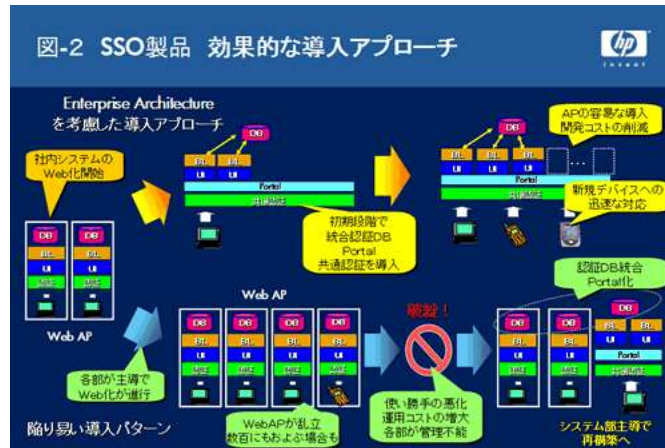
そんな中、登場してきたのが、最近流行している「Enterprise Architecture」(エンタプライズ・アーキテクチャ)です。従来、各部署は縦割りで、システムを構築していましたが、Enterprise Architectureでは、認証、ポータル、ビジネスロジック、認証データベースと各機能を水平方向に開発し、システム全体の最適化を図ります。このEnterprise Architectureこそが、効果的なシステム導入の2つ目の鍵なのです。(図-1)。



Enterprise Architectureによって何が変わるのでしょうか。

1. 開発コストの大幅削減が可能に  
アプリケーション毎の認証データベース構築、認証部分の開発等が不要になり、1Webアプリケーション毎に数百万円。さらに、データベースも考えれば数千円分のコスト削減を実現します。
2. 開発、変更が容易に  
Webアプリケーションの開発期間が短縮、変更が容易になるため、企業全体のアジリティが確実に高まります。

SSOとポータルの効果的な導入の2つ目の鍵である、Enterprise Architectureも、Webアプリケーションが多量に構築されてしまってから導入するのでは、一度垂直方向に作ったものを水平方向に再開発しなければならないため、その分のコストがかかってしまいます。よって、ここでもどの段階で導入するか判断が重要になります。(図-2)



HP IceWall SSOが実現するEnterprise Architecture

2-3年前までは、「Webサーバがまだ数台しかないから必要ない」、「先にWebアプリを導入してからSSO製品の導入を検討する」というのが多くの企業のSSO製品に対する考え方でした。当時SSO製品は、単にユーザの利便性向上のためのツールと認識されていました。そんな中、システム全体を見通したいくつかの企業では、将来のシステム構造をにらみ、SSO製品を積極的に導入していきました(HPでも1997年に導入)。現在SSO製品は、利便性の追及から、Enterprise Architectureの1レイヤを担う製品と認識が広まりつつあります。HP IceWall SSOもver.7.0より「Webセキュリティフレームワーク」として生まれ変わり、Enterprise Architectureを構成するための製品ラインナップを提供しています。(図-3)

